

2018年度決算書

2018年1月1日～2018年12月31日

日本ゲノム微生物学会

(単位:円)

収入の部

費目	2018年度予算額	2018年度決算額	決算額-予算額	備考	備考2
1. 会費収入	2,094,000	2,367,009	273,009		
一般会員	1,520,000	1,645,000	125,000	329名×¥5,000	
学生会員	94,000	80,000	-14,000	80名×¥1,000	
賛助会員	450,000	510,000	60,000	のべ17口×¥30,000	
機関会員	30,000	30,000	0	1機関×¥30,000	
前受金	0	102,009	102,009		
2. 雑収入	100	20,008	19,908		
利息	100	8	-92		
その他	0	20,000	20,000		
当期収入合計	2,094,100	2,387,017	292,917		
前年度繰越金	1,175,598	1,175,598	0		
本年度収入合計	3,269,698	3,562,615	292,917		

支出の部

費目	2018年度予算額	2018年度決算額	決算額-予算額	備考	備考2
1. 事業費	1,420,000	1,162,474	-257,526		
年会援助金	1,000,000	999,641	-359	2018年年会援助金100万円	
研究奨励賞経費	100,000	43,475	-56,525	賞状・記念品代、選考資料 送料、選考委員会旅費	
若手の会援助金	100,000	100,000	0		
会報発行費	100,000	0	-100,000		
男女共同参画費用	120,000	19,358	-100,642	年会での託児サポート費用	
HP作成費	0	0	0		
評議員選挙費用	0	0	0		3年に一度実施(次回は2020年)
2. 管理費	1,101,100	1,108,667	7,567		
事務委託費	550,800	550,800	0		会員数増加のため増額
会議費	300,000	288,358	-11,642	会議費・旅費等	2017年12月開催の評議員会旅費の 支払い
HP管理費	105,300	105,300	0	ドメイン管理費、HP更新管 理費	今年度より事務局クバプロに委託
一般管理費	145,000	164,209	19,209		
会費督促費	50,000	0	-50,000		
旅費	50,000	139,640	89,640	クバプロ年会出席表(2名)	
通信費①(年会用事務局荷物発送)	10,000	0	-10,000		
通信費②(学会事務局通信費)	10,000	2,185	-7,815		
消耗品費	15,000	10,936	-4,064		
振込手数料	10,000	11,448	1,448		
3. 予備費	200,000	0	-200,000		
その他	200,000	0	-200,000		
当期支出合計	2,721,100	2,271,141	-449,959		
次年度繰越金	318,825	1,291,474	972,649		
本年度支出合計	3,039,925	3,562,615	522,690		

貸借対照表

日本ゲノム微生物学会

平成30年12月31日現在

借 方		貸 方	
勘定科目	金額	勘定科目	金額
流動資産			
普通預金	765,298		
郵便振替	326,000		
郵便貯金	200,176	次年度繰越金	1,291,474
		前年度繰越金	1,175,598
		本年度収支差額	115,876
合 計	1,291,474	合 計	1,291,474

財産目録

資産の部

平成30年12月31日現在

勘定科目	摘 要	金額
普通預金	三井住友銀行飯田橋支店	765,298
郵便振替	飯田橋郵便局	326,000
郵便貯金	飯田橋郵便局	200,176
合 計		1,291,474

監 査 報 告 書

日本ゲノム微生物学会
会長 仁木 宏典 殿

日本ゲノム微生物学会の2018年における会計報告書は
監査の結果、適正であると認められます。

平成 31 年 2 月 15 日

会計監査 塩見 大輔



監 査 報 告 書

日本ゲノム微生物学会
会長 仁木 宏典 殿

日本ゲノム微生物学会の2018年における会計報告書は
監査の結果、適正であると認められます。

平成31年2月20日

会計監査 田中 寛 

2019年度収支予算書

2019年1月1日～2019年12月31日

日本ゲノム微生物学会

(単位:円)

収入の部

費目	2018年度決算額	2019年度予算額	予算額-決算額	備考	備考2
1. 会費収入	2,367,009	2,051,000	-316,009		
一般会員	1,645,000	1,540,000	-105,000	308名×¥5,000	納入率80%で計算。 (現在会員数385名)
学生会員	80,000	91,000	11,000	91名×¥1,000	納入率55%で計算。 (現在会員数165名)
賛助会員	510,000	390,000	-120,000	13団体13口×¥30,000	納入率100%で計算。 (現在会員数13団体)
機関会員	30,000	30,000	0	1機関×¥30,000	納入率100%で計算。 (現在会員数1機関)
前受金	102,009	0	-102,009		
2. 雑収入	20,008	50	-19,958		
利息	8	50	42		
その他	20,000	0	-20,000		
当期収入合計	2,387,017	2,051,050	-335,967		
前年度繰越金	1,175,598	1,291,474	115,876		
本年度収入合計	3,562,615	3,342,524	-220,091		

支出の部

費目	2018年度決算額	2019年度予算額	予算額-決算額	備考	備考2
1. 事業費	1,162,474	2,300,000	1,137,526		
年会援助金	999,641	2,000,000	1,000,359	2018年年会援助金100万円 2019年年会援助金100万円	2019年年会会場費の前払いが必要なため
研究奨励賞経費	43,475	100,000	56,525	賞状・記念品代、選考資料 送料、選考委員会旅費	
若手の会援助金	100,000	100,000	0		
会報発行費	0	100,000	100,000		
男女共同参画費用	19,358	0	-19,358	年会での託児サポート費用	最大12万円を見込んでいたが、申し込み0件だったため
HP作成費	0	0	0		
評議員選挙費用	0	0	0		3年に一度実施(次回は2020年)
2. 管理費	1,108,667	856,100	-252,567		
事務委託費	550,800	550,800	0		会員数増加のため増額
会議費	288,358	50,000	-238,358	会議費	評議員会の際のお弁当代となど
HP管理費	105,300	105,300	0	ドメイン管理費、HP更新管理費	事務局クバプロに委託
一般管理費	164,209	150,000	-14,209		
会費督促費	0	50,000	50,000		
旅費	139,640	50,000	-89,640		
通信費①(年会用事務局荷物発送)	0	10,000	10,000		
通信費②(学会事務局通信費)	2,185	10,000	7,815		
消耗品費	10,936	15,000	4,064		
振込手数料	11,448	15,000	3,552		
3. 予備費	0	100,000	100,000		
その他	0	100,000	100,000		
当期支出合計	2,271,141	3,256,100	984,959		
次年度繰越金	1,291,474	86,424	-1,205,050		
本年度支出合計	3,562,615	3,342,524	-220,091		

一般社団法人とNPO法人の比較

資料4-1

	一般社団法人	NPO法人
設立手続き	公証人の定款認証(1週間程度)後、設立登記	所轄庁の認証(2~3ヶ月)後、設立登記
設立時資金(基金)	不要	不要
設立者数	2人以上	10人以上
理事数	1人以上(理事会非設置) 3人以上(理事会設置)	3人以上
監事数	1人以上(理事会設置の場合)	1人以上
会計監査人数	原則不要	不要
公証人手数料	50,000円	不要
登録免許税	60,000円	不要
所轄庁	なし	都道府県庁又は内閣府
監督	なし	都道府県庁又は内閣府
許認可	なし	認証
設立期間	2週間~3週間程度	4ヶ月~6ヶ月
社会的信用	低い	高い
課税	学会は非収益事業なので原則不課税、課税売上が1000万円を超えた場合消費税課税、法人住民税年間70,000円	学会は非収益事業なので原則不課税、課税売上が1000万円を超えた場合消費税課税、法人住民税は免除
税率	会社と同じ	会社と同じ
寄付金優遇	公益認定を受けると優遇あり	なし
報告	なし	毎年度所轄庁に提出
法人格取消し	休眠の場合解散	認証取消しの場合解散
法務局への登記	役員変更などの際に登記(1回あたり2~3万円の司法書士費)	役員変更などの際に登記(1回あたり2~3万円の司法書士費)
税理士費用	年間5~10万円	年間5~10万円

法人化後の注意点

1. 年会の収支決算を、学会本体の会計と連結する。
これまで学会本体とは独立に運営していた年会収支決算を本体会計に組み込む。
これにより学会自体の年間予算額は 1000 万円前後になると思われるが、ほとんどが年会費、年会参加費などで課税売上は 1000 万を超えることはないので、非課税であることは変わらない。
また、年会時に特別講演の先生に謝金を支払った場合、学生アルバイト代などは所得税の源泉徴収手続きが必要になる。
2. NPO でも一般社団法人でも、理事の任期は 2 年が上限となっている。現行の日本ゲノム微生物学会では評議員の任期を 3 年にしているので、この辺りの調整が必要になる。
3. 法人化後の最高議決機関をどこにするか。(法人化後に社員をどうするか。)
 - ・ 直接民主制的方法
これまで通り、すべての個人会員をもって法人の社員とする場合。
→これまでの総会が法人法上の社員総会となる。これまでと運営方法はあまり変えずに法人への移行が可能。ただし、社員総会の定足数を満たせない場合は、総会が不成立となり学会運営に支障が生じる。定款変更などは定足数の要件が厳しく、重要案件ほど成立させづらい。
 - ・ 間接民主制的方法
これまでの評議員を、「代議員」とあらため、代議員を法人法上の社員とし、代議員会をもって法人法上の社員総会とする場合。
→会員個々人が直接学会の運営に携われなくなるが、代議員会ですべての事項を議決できるので、スピーディな学会運営が可能。これまでの総会は「会員総会」「会員報告会」などの形で存続。

その他、(株)クバプロの事務委託費について、月額 2,000 円の値上げをお願いします。税理士との連絡調整、都庁又は法務局への届け出・提出書類の作成など、これまでと比べて業務が増加、複雑化いたしますので、ご了承いただければ幸いです。

見 積 書

No. 1902152

平成31年2月15日

日本ゲノム微生物学会

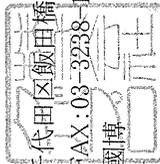
御中

株式会社 クハプロ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-14-15

TEL:03-3238-1689 FAX:03-3238-1887

代表取締役 松田 國博



下記の通りお見積り申し上げます。

合計金額		¥ 382,276			
品名・仕様	数量	単価	金額	消費税	小計
日本ゲノム微生物学会の一般社団法人化にかかる経費として (内訳)	1 式	382,276	382,276		382,276
一般社団法人設立登記手続き費用	1 式	60,000	60,000	4,800	64,800
上記登録免許税	1 式	60,000	60,000		60,000
定款認証手続き費用	1 式	22,000	22,000	1,760	23,760
上記手続き印紙税	1 式	52,750	52,750		52,750
謄本、印鑑証明取得費用(銀行口座開設のため)	1 式	1,700	1,700	136	1,836
上記手続き印紙税	1 式	930	930		930
定款案作成費用	1 式	100,000	100,000	8,000	108,000
司法書士との連絡調整費	1 式	35,000	35,000	2,800	37,800
日本ゲノム微生物学会様との連絡調整費	1 式	30,000	30,000	2,400	32,400
合計			362,380	19,896	382,276

見 積 書

平成31年2月15日

日本ゲノム微生物学会

御中

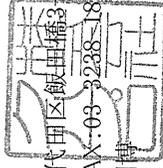
No. 1902153

株式会社 クバプロ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15

TEL:03-3238-1689 FAX:03-3238-1837

代表取締役 松田 國博



下記の通りお見積り申し上げます。

合計金額					
品名・仕様	数量	単価	金額	消費税	小計
日本ゲノム微生物学会のNPO化にかかる経費として (内訳)	1 式	234,966	234,966		234,966
登記手続き費用	1	50,000	50,000	4,000	54,000
謄本、印鑑証明取得費用(銀行口座開設のため)	1	1,700	1,700	136	1,836
上記手続き印紙税	1	930	930		930
定款案作成費用	1 式	100,000	100,000	8,000	108,000
司法書士との連絡調整費	1 式	35,000	35,000	2,800	37,800
日本ゲノム微生物学会様との連絡調整費	1 式	30,000	30,000	2,400	32,400
合計			217,630	17,336	234,966

生物科学学会連合

The Union of Japanese Societies for Biological Science



2018 - 2019

生物科学学会連合について

生物科学学会連合は、生物科学に関連する学術研究団体の連合体で、2018年6月現在で31団体が加盟しています。加盟などに関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

生物科学学会連合事務局

〒113-0033

東京都文京区本郷2-26-11 浜田ビル5階

中西印刷株式会社 東京営業部内

TEL: 03-3816-0738 FAX: 03-3816-0766

E-mail: seikaren@nacoss.com

URL: <http://www.nacoss.com/seikaren/>

ご挨拶

生物科学学会連合（生科連）は、生物科学、生命科学関係の学会がゆるやかな連携で協力体制を築き、関連分野の諸問題について討議し解決を図るとともに、将来を見据えた提言を行って、生物科学の発展に大きく寄与することを目的とした組織です。現在、31団体が加盟しています。

21世紀は生物科学の時代と言われて久しくなりました。幅広い分野がゆえに数多くの学会が存在し、それぞれがさまざまな活動を行っています。一方で、代表的な学会をもたないために、個別の学会の声が国の施策や社会になかなか届かないもどかしさもありました。生科連は、単独の学会では解決困難な課題に対し、情報を共有して一緒に知恵を絞り、解決をめざします。若手キャリアパス、学会大会の合同の動きなど、山積する重要な課題に、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

生科連が生物科学分野の一層の発展に寄与するために、参加学会のみならず関係各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。



生物科学学会連合代表
中野 明彦

特定非営利活動法人 個体群生態学会



会長：松田 裕之
(2018年6月1日現在)

- 1961年設立
- 会員数：270名
- 〒603-8148
- 京都市北区小山西花池町1-8
（株）土倉事務所内 個体群生態学会事務局
- Tel：075-451-4844
- Fax：075-441-0436
- E-mail：bwa36248@nifty.ne.jp
- URL：http://www.population-ecology.jp/

生物の個体群に関係した生態学や進化学の発展をはかるため、大会を年1回開催。日本の生態学分野の英文誌としてもっとも歴史が長く、国際的評価も高いPopulation Ecologyを年4回発行。若手研究者の顕彰などにも取り組んでいる。

一般財団法人 染色体学会



理事長：福井 希一
(2018年6月1日現在)

- 1949年設立
- 会員数：208名 (2018年3月31日現在)
- 〒108-8639
- 東京都港区白金台4-6-1
東京大学医科学研究所2号館3階西側
病態医療科学分野内
- Tel：03-5449-5299
- Fax：03-5449-5418
- E-mail：hitchromo@cbsm.k.u-tokyo.ac.jp
- URL：http://www.org.kobe-u.ac.jp

染色体に関する学理およびその応用研究の進展と知識の普及を図ることを目的に、年一回学術集会、市民公開講座を全国各地で開催し、学会英文誌Chromosome Scienceを年4巻発行している。優れた業績を挙げた研究者に対する学会賞や論文賞、若手を対象とした年会におけるベストプレゼンテーション賞などの顕彰事業も行っている。また、アジアの染色体研究拠点として国際会議ACCを運営し、積極的に国際化を推進している。

日本味と匂学会



会長：三輪 高喜
(2018年6月1日現在)

- 1991年設立
- 会員数：715名 (2018年2月28日現在)
- 〒920-0293
- 石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢医科大学医学部耳鼻咽喉科学内
- Tel：076-286-2211
- Fax：076-286-5566
- E-mail：jasts@kanazawa-med.ac.jp
- URL：http://jasts.com

本学会は、前身である「日本味と匂のシンポジウム」が1967年に発足して以来、味と匂に関する科学の広範な研究の進展を図るため、学術大会の年1回開催、日本味と匂学会誌等の年3回刊行、メーリングリストの運用等により会員の交流を促進し、顕彰事業などを通して若手研究者の育成にも積極的に取り組んでいる。また、アジア地区連携シンポジウムを開催するなど、国際化の促進をはかっている。

公益財団法人遺伝学普及会 日本遺伝学会



会長：小林 武彦
(2018年6月1日現在)

- 1920年設立
- 会員数：721名 (2018年5月15日現在)
- 〒411-8540
- 静岡県三島市谷田1111
国立遺伝学研究所内
- Tel/Fax：055-981-6736
- E-mail：japgenet@nig.ac.jp
- URL：https://gsj3.org

年1回の大会、市民公開講座、年数回の談話会を開催。国際誌「Genes & Genetic Systems (年6回)」、ニュースレター「GSJコミュニケーションズ (年3回)」発行。学会賞(木原賞)、奨励賞、ベストペーパー賞、GGSP prizeを設け、優れた研究を表彰。昨年度より退職した研究者の活躍の場「シニア科学アカデミー」を設立。分子から集団、エピジェネティクスまで幅広い分野をカバー。

一般社団法人 日本宇宙生物科学会



理事長：保尊 隆享
(2018年6月1日現在)

- 1987年設立
- 会員数：250名(2018年4月1日現在)
- 〒162-0808
- 東京都新宿区天神町78
- Tel：03-3235-2062
- Fax：03-3268-3023
- E-mail：jsbss-office@spacebio.sakura.ne.jp
- URL：http://www.jsbss.jp/

本会は、宇宙環境を利用して宇宙的な視野で生命現象を理解し、生物学を宇宙に普遍的な科学へと発展させることを目的として設立されました。学術集会、公開講演会の開催、学会誌Biological Sciences in Spaceの発行、優れた研究の顕彰などを通して、宇宙生物科学研究の振興と発展、研究者の交流や協力の促進、研究成果の発信と普及を図っています。また、国内外の関係団体と連携して、人類の長期宇宙居住をめざした活動も進めています。

日本時間生物学会



理事長：深田 吉孝
(2018年6月1日現在)

- 1995年設立
- 会員数：661名(2018年5月1日現在)
- 〒464-8601
- 愛知県名古屋千種区不老町
- 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所内 吉村崇(事務局長)
- Tel/Fax：052-789-4069
- E-mail：chronobiology.jp@gmail.com
- URL：http://chronobiology.jp/

基礎科学から応用科学に至る時間生物学の広い領域から研究者が結集している学会である。学術集会を年1回開催するほか、機関誌「時間生物学」を年2回発行している。また、米国生物リズム研究会や欧州生物リズム学会と協力し、国際学術集会や若手向けの教育コース「時間生物学サマースクール」を定期的に開催している。さらにアジア時間生物学フォーラムやアジア睡眠学会と国際学術集会を共同開催している。

日本植物形態学会



会長：峰雪 芳宣
(2018年6月1日現在)

- 1988年設立
- 会員数：243名(2018年5月1日現在)
- 〒112-8681
- 文京区目白台2-8-1
- 日本女子大学理学部物質生物科学科内
- Tel：03-5981-3663
- Fax：03-5981-3663
- E-mail：n-nagata@fc.jwu.ac.jp
- URL：http://square.umin.ac.jp/pl-morph/

日本植物形態学会は、植物の形態・構造、そしてその機能に関連した分野の研究者が、新しい技術や理論、そして研究の発展方向などを積極的に議論し、実質的な相互の交流の場を持つという趣旨のもと1988年1月に設立された学術研究団体です。総会・大会を年1回開催しているほか、学会誌PLANT MORPHOLOGYを年1回、刊行しています。また、植物形態学分野で優れた業績を挙げた研究者／研究の顕彰も行っています。

一般社団法人 日本解剖学会



理事長：岡部 繁男
(2018年6月1日現在)

- 1887年設立
- 会員数：2,340名(2018年6月1日現在)
- 〒170-0003
- 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル
- 一般財団法人 口腔保健協会内
- Tel：03-3947-8891
- Fax：03-3947-8341
- E-mail：gakikai24@kokuhoken.or.jp
- URL：http://www.anatomy.or.jp/

本会は明治26年(1893年)に創設された長い歴史を持つ学会であり、肉眼解剖学から分子構造の解明まで、様々なレベルの構造のかたちを観察・解明することを通じて、ヒトをはじめとする生物の生理機能を理解することを目指しています。毎年3月の総会・全国学術集会のほか、支部学術集会の開催、英文学術誌Anatomical Science Internationalの刊行、解剖組織技術者の認定などを行っています。

公益社団法人 日本実験動物学会



理事長：浦野 徹
(2018年6月1日現在)

- 1951年設立
- 会員数：1,069名(2018年5月現在)
- 〒113-0033
- 東京都文京区本郷6-26-12
- 東京RSビル3F
- Tel：03-3814-8276
- Fax：03-3814-3990
- E-mail：JDK06323@nifty.ne.jp
- URL：http://www.jalas.jp/

実験動物はライフサイエンス研究や医薬品開発等の分野で多用され、動物実験はそれらの研究開発に不可欠な手段として広範な分野で実施されています。日本実験動物学会は、マウスから霊長類まで多様な実験動物に関する基礎及び応用研究、動物実験に関する技術開発等に携わる研究者、技術者を主な会員とし、年1回の定期学術集会、学術シンポジウムや動物実験の適正化に関するセミナー等の開催、学会誌Experimental Animalsの刊行を行っています。

一般社団法人 日本植物生理学会



会長：三村 徹郎
(2018年5月15日現在)

- 1959年設立
- 会員数：2,057名(2018年5月15日現在)
- 〒602-8048
- 京都市上京区下立売小川東入
- 西大路町146番地
- Tel：075-415-3661
- FAX：075-415-3662
- URL：https://www.jspp.org/

本学会は、多様な植物と微生物を対象とした基礎研究と応用研究に携わる研究者による学術団体で、若手会員と外国人会員の比率が高いのが特徴です。創立55周年にあたる2014年に、一般社団法人となりました。学会誌Plant and Cell Physiologyは国際的にも高い評価を得ています(2017年5-year IF=4.817)。また、学会ウェブサイトの一般向けページ「みんなのひろば」は年間アクセスが230万件を超えており、植物科学研究のアウトリーチにも大きく貢献しています。

一般社団法人 日本細胞生物学会



会長：大野 博司
(2017年6月7日現在)

- 1950年設立
- 会員数：1,244名(2018年6月現在)
- 〒602-8048
- 京都市上京区下立売通小川東入
- Tel：075-415-3661
- Fax：075-415-3662
- E-mail：jscb@nacoss.com
- URL：http://www.jscb.gr.jp/

本会は細胞生物学の進歩発展を図ることを目的として、学術集会の開催、学会誌Cell Structure and Functionの刊行、会報の発行、国際細胞生物学連合やアジア太平洋細胞生物学連合の活動への協力などを行っています。細胞生物学は、電子顕微鏡技術の発展、分子イメージング技術の発達、各種生化学的技術の開発、分子生物学と細胞工学・遺伝子工学の導入によって急速に進歩し、動物・植物を問わず、細胞の生命現象の解明は急速に進み、その成果は確実に医学・農学・薬学等へ応用されてきました。今や細胞生物学は生命科学の中心であり、本会はその進歩発展、次世代の若手研究者の育成に貢献していきたいと考えています。

公益社団法人 日本植物学会



会長：三村 徹郎
(2018年6月1日現在)

- 1887年設立
- 会員数：約1,940名(2018年5月28日現在)
- 〒113-0033
- 東京都文京区本郷2-27-2
- エスプランサV 2階
- Tel：03-3814-5675
- Fax：03-3814-5352
- URL：http://bsj.or.jp/

植物学に関する研究の進展と知識の普及を図り、それによって学術全般の発展に寄与することを目的に設立された学術団体です。(1)学術集会、講演会、講習会等の開催、(2)国際学術雑誌「Journal of Plant Research」、その他出版物の発行、(3)調査及び研究、(4)学会賞を制定し、植物学の進歩に貢献した者、もしくは将来の貢献が期待される者の表彰ならびに研究の奨励、(5)国内外の関係学術団体との連絡及び協力を行っています。

一般社団法人 日本進化学会



会長：田村浩一郎
(2018年6月1日現在)

- 1999年設立
- 会員数：1,200名(2018年6月現在)
- 〒102-0072
- 東京都千代田区飯田橋3-11-15
- 6階 株式会社クバパロ内
- Tel：03-3238-1689
- Fax：03-3238-1837
- E-mail：shinka@kuba.jp
- URL：http://sesj.kenkyukai.jp

日本進化学会は、進化に関する広範な研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の発展に寄与することを目的に設立されました。年1回の学術集会では、研究発表、優秀発表の表彰、初心者向け教育プログラム、高校生発表会、市民向け講演会を行っています。日本進化学会賞、研究奨励賞、教育啓発賞により研究の奨励と一般への研究成果の発信を行っています。年3回の日本進化学会ニュースを発行し、会員間での情報の共有を行っています。国内外の関係団体と国際学会などの共催を通して進化学の国際化に寄与しています。

日本神経化学会



- 1958年設立
- 会員数：1,300名
- 〒160-0016
新宿区信濃町35信濃町煉瓦館
(一財) 国際医学情報センター内
- Tel：03-5361-7107
- Fax：03-5361-7091
- E-mail：jsn@imic.or.jp
- URL：http://www.neurochemistry.jp/

理事長：和田 圭司
(2018年6月1日現在)

日本神経化学会は「神経化学」を標榜する世界の学会の中で最も長い歴史と最大級の会員数を有します。脳とこころの病気の原因や発症の仕組みを分子実体として明らかにし、さらにそこからサイエンスの新しい地平線を切り開くことが主たる使命です。年次大会では神経生物学、神経薬理学、神経生化学、精神医学、神経内科学を中心とした基礎研究者と臨床医学者が集い、熱い討論を繰り広げています。次世代の人材を輩出する場として「神経化学の若手研究者育成セミナー」の運営を行っています。社会とともに歩む学会として日々の活動紹介に努めています。

一般社団法人 日本生態学会



- 1953年設立
- 会員数：3,930名 (2018年5月14日現在)
- 〒603-8148
京都市北区小山西花池町1-8
- Tel/Fax：075-384-0250
- E-mail：office@mail.esj.ne.jp
- URL：http://www.esj.ne.jp/

会長：占部城太郎
(2018年6月1日現在)

生態学の進歩と普及を図ることを目的として、日本生態学会は、生態学およびその関連分野に関わる研究を推進するため、研究者を始め関連する職業や学生の方々を会員として、1953年に設立されました。近年は、自然保護や生態系管理に関する提言のほか、英文誌の充実、学会大会での英語発表の推進や学位取得者のキャリア支援などにも力を入れて活動を行っています。また、生物多様性や気候変動などの問題を通じて、当会と社会への関わりの幅をこれまで以上に広げています。

一般社団法人 日本生理学会



- 1922年設立
- 会員数：2,836名 (2018年1月現在)
- 〒160-0016
東京都新宿区信濃町 煉瓦館5階
(一財) 国際医学情報センター内
- Tel：03-5361-7277
- Fax：03-5361-7091
- E-mail：psj@imic.or.jp
- URL：http://physiology.jp/ (日本語版)
http://int.physiology.jp/ (英語版)

理事長：丸中 良典
(2018年6月1日現在)

日本生理学会は生命現象の仕組みを分子から個体までのあらゆるレベルで明らかにするための研究を進めている。これらの研究成果は、日本生理学会大会、各地で開催される地方学術集会、J Physiol Sci (英文学術雑誌)、日本生理学雑誌 (和文学術雑誌) において発表されている。2019年3月には神戸国際会議場にて、第9回アジア・オセアニア生理学連合2019年大会を日本生理学会が主催し、アジア・オセアニアから多くの研究者が参加し、生理学の更なる発展に大きく寄与することが期待されている。

日本神経科学学会



- 1974年設立
- 会員数：6,130名 (2018年6月1日現在)
- 〒113-0033
東京都文京区本郷7丁目2-2
本郷ビル9F
- Tel：03-3813-0272
- Fax：03-3813-0296
- E-mail：office@jnss.org
- URL：http://www.jnss.org/

会長：伊佐 正
(2018年6月1日現在)

脳・神経系に関する基礎・臨床及び応用研究を推進し、その成果を社会に還元、ひいては人類の福祉や文化の向上に貢献すべく、神経科学研究者が結集した学術団体です。国際的な学術集會を毎年開催するとともに、英文学術誌Neuroscience Researchを発行して研究成果を世界に向けて発信しています。また、利用無料のオンライン辞典である脳科学辞典を主催し、学術集會に連動して市民公開講座を開催するなど、社会へのアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいます。

一般社団法人 日本生物教育学会



- 1955年設立
- 会員数：約800名 (2018年6月1日現在)
- 〒113-0033
東京都文京区本郷2-26-11
浜田ビル6階
中西印刷株式会社東京営業部内
- Tel：03-3816-0738
- Fax：03-3816-0766
- E-mail：sbsej@nacocs.com
- URL：http://sbsej.jp/

会長：渥美 茂明
(2018年6月1日現在)

日本生物教育学会は、生物教育に関わる学術的研究および実践的研究の振興を目的として活動しています。会員の研究活動の交流の場として、会誌『生物教育』を刊行し、全国大会を毎年開催しています。大学入試センター試験問題検討委員会は試験問題を分析検討し、改善を提言しています。国際交流委員会を通じてアジア生物学教育協議会(AABE)に協力しています。また、日本生物学オリンピック運営に参画しています。

一般社団法人 日本蛋白質科学会



- 2001年設立
- 会員数：1,450名 (2018年6月現在)
- 〒562-8686
大阪府箕面市稲4-1-2
- Tel：072-729-4125
- Fax：072-729-4165
- E-mail：jimuj@pssj.jp
- URL：http://www.pssj.jp/

会長：三木 邦夫
(2018年6月27日現在)

日本蛋白質科学会は2001年に設立され、広く蛋白質に関する科学の研究を推進し、わが国における学術の発展に寄与することを目的としています。年に1回の年会の開催、学術集會・講演会の開催、電子メールによるニュースレターの発行、蛋白質科学会アーカイブによるオンラインの情報発信、アジア環太平洋地域における蛋白質科学の国際連携などの活動を行っています。蛋白質科学の研究や教育に関わる次世代の人材育成にも力を入れています。

公益社団法人 日本生化学会



- 1925年設立
- 会員数：8,200名 (2018年6月1日現在)
- 〒113-0033
東京都文京区本郷5-25-16
石川ビル3階
- Tel：03-3815-1913
- Fax：03-3815-1934
- E-mail：jbs-ho@jbsoc.or.jp
- URL：http://www.jbsoc.or.jp/

会長：山本 雅之
(2018年6月1日現在)

日本生化学会は90年以上の長い歴史を持つ組織です。生命現象を分子レベルで解明することを目指す生化学に関連する研究、教育、普及、行政活動を幅広く支援しています。学会全体の年大会は、会員の発表と相互交流の場となっています。各地域の会員で構成される8つの支部も、それぞれが活発な活動を行っています。アジア・オセアニア生化学分子生物学者連合FAOBMBの日本窓口も務めています。和文誌「生化学」を年6回、英文誌「Journal of Biochemistry」を年12回発行しています。

一般社団法人 日本生物物理学会



- 1960年設立
- 会員数：約3,300名
- 〒602-8048
京都府京都市上京区下立売通
小川東入る
- Tel：075-415-3661
- Fax：075-415-3662
- E-mail：bpsjp@biophys.jp
- URL：http://www.biophys.jp/

会長：神取 秀樹
(2018年6月1日現在)

本学会は、「物理的科学の方法一般と生物的科学との融合による生命現象の基本的理解」を目的として設立された。この目的を達成するために、学術集會(年会)を年1回開催するとともに、学会誌「生物物理」およびOn-line journal「Biophysics and Physicobiology」を発行している。若手研究者の育成のため、若手奨励賞による顕彰、海外派遣の支援等を行っている。また、アジア生物物理学連合に協力し、アジアの生物物理振興にも貢献している。

公益社団法人 日本動物学会



- 1878年設立
- 会員数：2,215名 (2018年6月1日現在)
- 〒113-0033
東京都文京区本郷7-2-2
本郷MTビル4階
- Tel：03-3814-5461
- Fax：03-3814-6216
- E-mail：zsj-society@zoology.or.jp
- URL：http://www.zoology.or.jp/

会長：岡 良隆
(2018年6月1日現在)

動物科学研究の発展と普及を目的とし、学術集會を年1回開催、全国7支部における支部会、一般向け講演会開催も活発に行っている。Zoological Science、また2015年よりOA誌Zoological Lettersを刊行。動物学会賞や女性研究者奨励OM賞など多彩な賞を有している。支部大会を含めた、大会における高校生ポスター発表は、すでに20年近い歴史を持っている。またZooDiversityWebを構築。本会が目指す「多様性研究」の一助となるよう全世界の動物学者に利用を呼び掛けている。http://zdw.zoology.or.jp/ 平成24年7月公益社団法人化、平成25年9月税額控除団体として認定。

公益社団法人
日本農芸化学会



●1924年設立
●会員数：10,653名 (2018年2月末日現在)
●〒113-0032
東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル内
●Tel：03-3811-8789
●Fax：03-3815-1920
●E-mail：shomu@jsbba.or.jp
●URL：http://www.jsbba.or.jp/

会長：佐藤隆一郎
(2018年6月1日現在)

「農芸化学」は、生命現象を化学的に解析し、その有用機能を農業生産、加工品生産などに応用展開し、社会還元を目指す日本で独自に発展した研究・教育分野です。日本農芸化学会は、この分野の進歩を通じて科学・技術・文化の発展に寄与することで人類の福祉の向上に資することを目的に1924年に設立されました。現在、創立100周年に向けて、「生命」「食」「環境」の3つをキーワードとして、さらなる発展を期して活動を強化しています。

日本比較内分泌学会



●1975年設立
●会員数：約420人
●〒252-0373
神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学海洋生命科学部魚類分子内分泌学研究室内
日本比較内分泌学会事務局
●Tel：042-778-9144
●Fax：042-778-5010
●E-mail：mizusawa@kitasato-u.ac.jp
●URL：http://www.jsce1975.jp

会長：高橋 明義
(2018年6月1日現在)

「日比内」は理学、農学、医学、薬学、化学など多様な分野の研究者が集い、内分泌現象を進化の視点から追及しています。毎年大会とシンポジウムを開催しつつこれまでに4回、国際学会を主催してきました。学会誌「比較内分泌学」を年3回刊行しているほか、論文発表の場としてGeneral and Comparative Endocrinology誌(Elsevier)と提携しています。また教育と社会貢献の一環としてホルモンの分子生物学シリーズ、ホルモンから見た生命現象と進化シリーズやHandbook of Hormones等、多数の書籍を出版しています。

日本分類学会連合

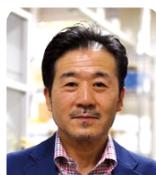


●2002年設立
●会員数：加盟学会25学会(2018年6月現在)
●〒305-0005
茨城県つくば市天久保4-1-1
国立科学博物館植物研究部
●Tel：029-853-8973
●fax：029-853-8401
●E-mail：hosoya@kahaku.go.jp
●URL：http://www.ujsb.or.jp/

代表：細矢 剛
(2018年6月1日現在)

本連合は日本の生物分類学に関わる25学会の連合組織であり、分類学に関わる研究教育の発展・普及を目指して設立されました。ニュースレターを年2回発行し、毎年1月初旬に分類学に関連するシンポジウムを国立科学博物館で開催しています。最近、大学や博物館の分類学的標本の維持が難しくなってきた世相に大変な危機感を持っています。標本から得られる情報の重要性をアピールする活動が必要だと考えています。

日本発生生物学会



●1968年設立
●会員数：約1,160名 (2018年6月現在)
●〒650-0047
神戸市中央区港島南町2-2-3 理化学研究所
生命機能科学研究センター内
●Tel：078-306-3072
●Fax：078-306-3072
●E-mail：jsdbadmin@jsdb.jp
●URL：http://www.jsdb.jp/

会長：上野 直人
(2018年6月1日現在)

本学会は発生生物学の進歩と普及に努めることを目的として設立されました。国際誌Development Growth & Differentiationを刊行し、また年1回の大会を開催しています。さらに、国際発生生物学会の構成学会としての活動に加え、年会の英語化、アジア・環太平洋ネットワーク(APDBN)形成、外国の発生生物学会との合同ミーティング開催、および若手研究者の海外派遣支援プログラムなどによって国際化を進めています。

日本微生物生態学会



●1985年設立
●会員数：約1,000名
●〒305-8566
茨城県つくば市東1-1-1 中央第6-10
産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門
生物資源情報基盤研究グループ内
日本微生物生態学会事務局
●Tel/Fax：029-861-6591
●URL：http://www.microbial-ecology.jp/

会長：鎌形 洋一
(2018年6月1日現在)

微生物生態学は環境微生物学のほか、微生物生理学、微生物系統進化学、微生物ゲノム科学、公衆衛生学、食品微生物学、環境バイオテクノロジーなどを網羅し、地球システム全体をその研究対象とする総合的学問である。微生物生態学会はそれらを包括する学会として設立された。学術集会を年1回開催するほか、日本土壌微生物学会、台湾微生物生態学会ならびに植物微生物研究会との共同編集により学術誌Microbes and Environments (IF=2.909)を年4回刊行する。

特定非営利活動法人
日本免疫学会



●1970年設立
●会員数：4071名(2018年5月14日現在)
●〒101-0024
東京都千代田区神田和泉町1-4-2
KUMAKIビル2F
●Tel：03-5809-2019
●Fax：03-5809-2089
●E-mail：info@meneki.or.jp
●URL：http://www.jsi-men-eki.org/

理事長：坂口 志文
(2018年6月1日現在)

日本免疫学会は、生体防御と生命恒常性を司る免疫(学)の研究を進展させ、より広く世界に広めることを目指しています。年1回の学術集会の開催、日本免疫学会賞などの顕彰、学術誌International Immunologyやニュースレターの刊行、によって会員の交流促進と若手研究者の育成に積極的に取り組んでいます。さらに、サマースクールや「免疫ふしぎ未来」などの活動を通して、一般社会に対しても免疫(学)の重要性をアピールし、研究への理解を深めいただく努力をしています。

日本比較生理生化学会



●1978年設立
●会員数：396名 (2018年5月18日現在)
●〒657-8501
兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学大学院理学研究科生物学専攻
生体分子機構講座 分子生理教育研究分野内
●Tel：078-803-5718
●Fax：078-803-5770
●E-mail：office@jscp.org
●URL：http://jscp.org/

会長：尾崎まみこ
(2018年6月1日現在)

本学会は、広範な生命現象の理解を目指し、比較生理生化学とこれに関連する学術研究を振興して参りました。地球上に共存する多様な生物が進化の過程で獲得してきた、環境に巧みに適応するしくみを、「比較」の立場から明らかにすることを目的としています。年1回の全国大会、合同シンポジウムを開催し、年4回、学術雑誌「比較生理生化学」を刊行しています。高い研究水準を保ちつつもまた、広く社会に貢献できる学会を念頭に、出版事業、教育活動を積極的に推進し、学会ホームページ上では、今日的なトピックスを平易に解説した「動物の生きるしくみ事典」や本学会員が用いている研究材料の紹介なども行い、この分野の魅力を知ってもらう取り組みを重ねています。

特定非営利活動法人
日本分子生物学会



●1978年設立
●会員数：約12,700名 (2018年5月現在)
●〒102-0072
東京都千代田区飯田橋2-11-5
人材開発ビル4階
●Tel：03-3556-9600
●Fax：03-3556-9611
●E-mail：info@mbsj.jp
●URL：http://www.mbsj.jp/

理事長：杉本 亜砂子
(2018年6月1日現在)

分子生物学は、生命現象を分子レベルで解明することを目指して今日まで発展してきました。本学会は学問の新しい流れに大胆且つ柔軟に取り組み、形式より実質を重んずる気風を特徴に活動しています。分子生物学に関する研究・教育の推進、現代生物学の発展に寄与することを目的として、学術年会を年1回開催し、学会誌Genes to Cellsを年12回刊行しています。高校への出前授業の仲介や高校生による年会での発表会等を通じて、次世代教育にも積極的に取り組んでいます。

公益社団法人
日本薬理学会



●1927年設立
●会員数：4,321名 (2017年12月末日現在)
●〒113-0032
東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル
●Tel：03-3814-4828
●Fax：03-3814-4809
●URL：http://www.pharmacol.or.jp/

理事長：吉岡 充弘
(2018年6月1日現在)

本会は、薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及、会員相互及び内外の関連学会との連携協力により、薬理学の進歩を図るため、年会、地方部会(年6回)、共催シンポジウム、セミナー、及び市民公開講座を開催し、学術誌Journal of Pharmacological Sciences及び日本薬理学雑誌を毎月発行している。また江橋節郎賞、及び若手を対象とする奨励賞等の顕彰を行っている。2018年7月に日本臨床薬理学会と共催で18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology (WCP2018)を国立京都国際会館で開催した。

生物科学学会連合 第16回定例会議 議事録

日 時：2017年10月7日（土）14:00～16:00

場 所：東京大学理学部2号館2階223号室（東京都文京区本郷7-3-1 東京大学本郷キャンパス内）

出欠状況：

出席（加盟団体）： *印は兼任または重複出席者を示す。

運営委員

中野 明彦（生科連2017-2018代表）

入江 賢児（生科連副代表） 小林 武彦*（生科連副代表） 宮島 篤 石野 史敏

団体代表

宮下 直*（個体群生態学会）	東原 和成（日本味と匂学会）
菱田 卓（日本遺伝学会）	保尊 隆亨（日本宇宙生物科学学会）
寺田 純雄（日本解剖学会）	大杉 美穂（日本細胞生物学会）
深田 吉孝*（日本時間生物学会）	松永 幸大（日本植物学会）
河野 重行（日本植物形態学会）	福田 裕穂*（日本植物生理学会）
竹居光太郎（日本神経化学学会）	吉村由美子（日本神経科学学会）
後藤由季子（日本生化学会）	可知 直毅（日本生態学会）
宮下 直*（日本生態学会）	都築 功（日本生物教育学会）
豊島 陽子（日本生物物理学会）	渋谷まさと（日本生理学会）
後藤 祐児（日本蛋白質科学会）	岡 良隆（日本動物学会）
丹羽 隆介（日本発生生物学会）	尾崎まみこ（日本比較生理生化学会）
高橋 明義（日本比較内分泌学会）	大久保範聡（日本比較内分泌学会）
天知 誠吾（日本微生物生態学会）	深川 竜郎（日本分子生物学会）
細矢 剛（日本分類学会連合）	

（計25団体）

欠席（加盟団体）：染色体学会、日本実験動物学会、日本進化学会、日本農芸化学会、
日本免疫学会、日本薬理学会

（計6団体）

（加盟合計31団体）

出席：浅島 誠（前代表） 深田 吉孝*（会計監査委員）

小林 武彦*（若手キャリア問題検討委員長）

出席（日本学術会議）：

福田 裕穂*（基礎生物学委員会）

出席（オブザーバー）：

北里 洋（自然史学会連合）

岸本 健雄（日本学術会議基礎生物委員会・統合生物委員会 合同動物科学分科会）

（計2団体）

（敬称略、団体名50音順）

事務局 中西 秀彦 村田 英樹

議題・報告：

1.代表挨拶

中野明彦代表より、定例会議開催に当たっての挨拶がなされた。

2.前回議事録の承認

第15回定例会議の議事録案が確認され、原案通り承認された。

3.平成28年度(2016年度)会計監査報告

深田吉孝会計監査委員より、資料に基づき第15回定例会議の際に確認されている平

成 28 年度（2016 年度）会計報告について、2017 年 7 月 14 日に深田吉孝、渡邊雄一郎両会計監査委員による会計監査が行われ、監査の結果、正確妥当なものであるとの監査報告がなされ、平成 28 年度（2016 年度）会計報告が承認された。

4.平成 30 年度(2018 年度)予算案について

事務局より、資料に基づき平成 30 年度（2018 年度）予算案について、前年度と同様の活動経費とした旨説明がなされた。協議の結果、原案通り承認された。

5.関連国際会議について

中野代表より、資料に基づき生科連が協賛した「ジェンダーサミット 10」の開催報告が科学技術振興機構からあった旨報告がなされた。

6.IBO・JBO(国際生物学オリンピック)について

都築功国際生物学オリンピック日本委員会委員（日本生物教育学会副会長）より、資料に基づき 2017 年 7 月にイギリスで開催された第 28 回国際生物学オリンピックにおいて、日本代表として参加した高校生 4 名が全員銀メダルを獲得したこと、また、次回はイランで開催予定であることが報告された。

引き続き都築氏より、2020 年には日本（長崎）において第 31 回国際生物学オリンピックが開催されることに伴い、運営資金が必要となるため、配布資料のような寄付依頼のパンフレットを作成したことが報告され、生科連ならびに加盟団体に対して協力依頼がなされた。

また、浅島誠前代表（国際生物学オリンピック日本委員会委員長）からも、重ねて生科連ならびに加盟団体に対する寄付の協力依頼がなされた。

これを受け中野代表より、現在は財政的にも可能であることから、生科連として 30 万円の寄付を行いたいとの提案がなされた。本件について生科連が行う寄付の金額や各加盟団体の対応方法などについて意見交換がなされ、加盟団体の個別事情なども鑑み、第 31 回国際生物学オリンピックについての詳細な情報を提示したうえで、中野代表より改めて各加盟団体宛に対応策の提案がなされることが確認された。

7.若手キャリア問題検討委員会について

小林武彦副代表（若手キャリア問題検討委員会委員長）より、資料に基づき株式会社リサブリックが行う「学術大会を活用した若手会員への就職支援サービスについて」の情報提供がなされた。

8.日本学術会議関連報告

中野代表より、前回定例会議で報告した日本学術会議における生物用語についての検討結果について、資料に基づき基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会が公表した「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」の作成経緯の報告がなされた。

この中で中野代表より、現在の高等学校の教科書「生物」の重要と指定される用語は約 2,000 語ときわめて多く、このままだと「生物」が暗記科目と誤解されてしまうことが懸念されるため、重要用語を約 500 語程度まで絞り込み、「生物」は考える学問であるというメッセージを伝えた。同時に複数の同義語の統一や混乱の見られる用語の呼び換えなどの作業も行っており、今後行われる教科書の改訂の際に反映されることを期待しているとの説明がなされた。

また、中野代表より、今回は短期間かつ少人数で作業を行ったため、これで完全なものだとは思っていない。これを各加盟団体に持ち帰って検討し、フィードバックを中野代表宛てに寄せて欲しいとの要望がなされた。

次に日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同生物科学分科会の岸本健

雄氏より、資料に基づき国立自然史博物館の設立について、沖縄県が積極的に誘致を進めていくとの報告がなされ、生科連に対しても引き続き協力依頼がなされた。

9.合同大会について

中野代表より、2017年4月にシカゴで開催された EXPERIMENTAL BIOLOGY 2017に参加した際の印象について、規模が大きい6学会を中心に数十学会により構成される合同大会で、巨大な会場で開催されており、日本とは事情が異なるとの報告がなされた。

また、中野代表より日本における他分野での合同大会の情報として、日本地球惑星学会連合について報告がなされ、50の学協会からなる連合体で法人格を有しており、1年に1回合同大会を開催しているが、生命科学系の学会との大きな違いは、地球惑星科学系の学会の多くは大会を年間2回開催していて、このうち1回が学会個別の大会、1回が合同大会となっているため、各学会としての独自性は保たれているとの説明がなされた。

引き続き、日本分子生物学会の深川竜郎氏より、2017年12月に開催される ConBio2017（2017年度生命科学系学会合同年次大会）について説明がなされ、開催後の検証、評価が重要になるとの見解が示された。

この他中野代表より、資料に基づき、過去の生物系学会の合同大会開催例が報告され、今後の合同大会開催の可能性を探るための検討を行いたい、ConBio2017の開催終了後の次回定例会議において、改めて議論したいとの提案がなされ、了承された。

10.その他

日本動物学会の岡良隆氏より、ORCID（Open Researcher and Contributor ID、世界中の研究者に一意の識別子を与えることを目指す国際的な非営利組織）について紹介がなされ、日本動物学会が窓口となって ORCID 学協会コンソーシアム設立に向けて検討を行っているとの説明がなされた。

中野代表より、次回（第17回）定例会議について、日時は2018年3月5日（月）14時から16時、場所は東京大学理学部2号館2階223号室で開催したいとの提案があり、了承された。

以上

第12回日本ゲノム微生物学会年会
収支決算書

2018年9月13日

資料6

収入の部				支出の部				
費目	単価	数量	金額	費目	単価	数量	金額	備考
1. 参加費			1,394,000	1. 会議準備費			1,383,969	
事前登録				1) 印刷費			807,840	
一般会員	5,000	× 114名	570,000	日本ゲノム要旨集(編集費含む)	756,000	× 1式	756,000	総ページ数: 122頁・500部・モノクロ
学生会員	1,000	× 66名	66,000	参加証作成費	51,840	× 1式	51,840	400枚
一般非会員	8,000	× 26名	208,000	2) HP・システム製作費			351,000	
学生非会員	2,000	× 9名	18,000	HP初期構築・設定・作成費	248,400	× 1式	248,400	
学部学生	0	× 18名	0	エントリーシステム初期構築費	86,400	× 1式	86,400	
招待	0	× 8名	0	エントリーシステムサーバー使用料	16,200	× 1式	16,200	
事前合計		241名	862,000	3) 事務費・諸雑費			225,129	
				備品費	3,240	× 1式	3,240	各印、認印
当日登録				登録関係処理費	74,849	× 1式	74,849	事前参加登録251名、演題登録(156演題・シンポジウム演題)
一般会員	7,000	× 28名	196,000	運営マニュアル作成費	32,400	× 1式	32,400	
学生会員	2,000	× 4名	8,000	打ち合わせ交通費	57,320	× 2回	114,640	東京⇄京都大桂キャンパス(2名往復)
一般非会員	10,000	× 31名	310,000					
学生非会員	3,000	× 6名	18,000	2. 当日運営費			2,853,982	
学部学生	0	× 6名	0	1) 施設使用料			366,100	
招待	0	× 2名	0	2) 会場設営費			700,620	
当日合計		77名	532,000	展示会場設営費	298,080	× 1式	298,080	7小間
参加者合計		318名		クローケ備品	35,100	× 1式	35,100	ハンガー・ラック・クローケ札
				諸経費	397,440	× 1式	397,440	人件費、運搬費等
2. 懇親会費			643,000	3) 講演会場設営費	12,960	× 1式	12,960	映像分配器、ケーブル
事前登録				4) 看板・案内表示作成費			10,800	
一般	5,000	× 77名	385,000	立看板	32,400	× 0枚	0	900×1800×1枚
学生	2,000	× 48名	96,000	誘導看板等	2,484	× 0枚	0	450×450足つき
招待	0	× 8名	0	標示	1,080	× 10枚	10,800	
事前合計		133名	481,000	5) 当日人件費			496,600	
				AE人件費	388,800	× 1式	388,800	4日×2名(設営日含む)
当日登録				AE人件費値引き	-194,400	× 1式	-194,400	
一般	6,000	× 26名	156,000	AE交通費1	57,320	× 1式	57,320	東京⇄京都(2名往復)
学生	2,000	× 3名	6,000	AE交通費2	6,880	× 1式	6,880	四条⇄京大桂キャンパス(2名分)
招待	0	× 1名	0	AE宿泊費	9,500	× 6泊	57,000	2名分
当日合計		30名	162,000	アルバイト人件費	181,000	× 1式	181,000	
懇親会合計		163名		6) 招待演者招聘費			118,731	
				招待演者(シンポジスト)旅費宿泊費	93,600	× 1式	93,600	旅費6名分、宿泊費2名分
				招待演者(Prof. Jean-Michel Claverie)謝礼金	25,131	× 1名	25,131	謝礼金20,000円、源泉徴収5,131円含む
3. 要旨集販売			14,000	7) 飲食関係費			719,988	
	1,000	× 14冊		懇親会費	3,600	× 180名	648,000	
	※2冊	会期後販売		コーヒー値引き分	-2,571	× 4セット	-10,284	
4. ランチョンセミナー出展料			0	コーヒーサービス費	82,272	× 1式	82,272	
ランチョンセミナー	216,000	× 0社	0	ランチョンセミナーお弁当代	1,080	× 0ヶ	0	
お弁当代	1,080	× 0個	0	8) 各種備品費			72,111	
				当日備品(文具、フェルト等)	16,200	× 1式	16,200	
5. 展示会出展料			1,004,400	ネームホルダー	13,392	× 1式	13,392	
展示会出展料	129,600	× 7小間	907,200	運送料	42,519	× 1式	42,519	会場-AE企画間
電気使用料	19,440	× 5社	97,200	9) ポスター賞関係費			26,480	
				賞品代(図書券)	10,000	× 1枚	10,000	最優秀賞、優秀賞
6. 広告掲載料			496,800	表彰状作成費	540	× 3式	1,620	審査委員会特別賞
広告料収入(表2)	108,000	× 1頁	108,000	賞状バインダー	1,620	× 3式	4,860	
広告料収入(表3)	86,400	× 0頁	0	10) ノベルティ(京都伝統産業交流センター)			299,592	コースター
広告料収入(表4)	118,800	× 1頁	118,800					
後付1	54,000	× 5頁	270,000	3. 業務委託費			758,140	
				ランチョンセミナー委託費	0	× 1式	0	出展料金合計額の15%
7. 補助金・寄付金			1,399,233	展示会委託費	150,660	× 1式	150,660	出展料金合計額の15%
日本ゲノム微生物学会 補助金			979,641	広告委託費	74,520	× 1式	74,520	掲載費合計額の15%
京都コンベンションビューロ			100,000	運営業務委託費	552,960	× 1式	552,960	8ヶ月分
京都らしいMICE開催支援補助制度			299,592	過剰請求分	-20,000	× 1式	-20,000	
AE過剰請求分			20,000	4. 振込手数料			3,942	実費請求
					3,942	× 1式		
8. 微生物統合データベース			48,600	5. 調整費(残予算)			0	
合計			5,000,033	合計			5,000,033	